

ヨブのことばは終わった

ヨブ記 29-31 章

はじめに

月の第四週に私が説教をする時には、旧約聖書の「ヨブ記」から説教をすることにしています。今日は 29-31 章の内容から学びたいと思いますが、ここにはヨブの言葉が書かれています。29 章にはヨブの昔の姿について、つまり試練に遭う前のヨブの姿について書かれています。30 章にはヨブの今の姿について、つまり試練の只中のヨブの姿について書かれています。そして 31 章にはヨブが自分の身の潔白を主張する言葉が書かれています。

31 章の最後には、「**ヨブのことばは終わった**」とあります。ヨブ記はこの後、32-37 章には第四の友人エリフの言葉が書かれ、38-41 章には神様の言葉が書かれ、42 章が終わりの言葉となります。ヨブの言葉は、この 31 章でほぼ終わりとなります。

1. ヨブの昔の姿

29 章には、試練に遭う前のヨブの姿について書かれています。試練に遭う前のヨブは、神様との親しい交わりの中にありました（29：4）。そして神様に守られ（29：2）、神様がいつも共にいてくださいました（29：5）。神様との親しい交わりの中にあつたヨブは、祝福された人生を歩んでいたのです。

ヨブは、若者から年寄りまで、すべての人から尊敬されていました（29：8）。普通の人々からだけでなく、首長や君主などの社会的に高い地位にある人からも一目置かれる存在でした（29：9-10）。

なぜヨブはそのように人々から尊敬されていたのでしょうか。それは、ヨブが社会的に弱い立場にある人々によく仕えていたからです。ヨブは、苦しみの中にある人、身寄りのないみなしご、死にかかっている者、やもめ、目が見えない人、足の萎えた人、貧しい人たちを助けたのです。そして見知らぬ人の裁判まで世話をしたのです（29：12-16）。ヨブはなぜそのよう社会的に弱い立場にある人々を助けたのでしょうか。それは、神様がそのように社会的に弱い立場にある人々を顧みられる方だからです。ヨブは神様に愛され、ヨブも神様を愛しました。そしてヨブは、神様が愛される人々をも愛したのです。

そのようなヨブのことを人々も愛しました。ヨブは、人々の行くべき道を示し、嘆き悲しむ人に慰めの言葉を語る人でした（29：25）。それゆえ人々は、ヨブの言葉を待ち望み、ヨブの言葉に聞き入り、従ったのです（29：21-23）。

そのように神様との親しい交わりの中にあり、神様からも人々からも愛されたヨブは、神様の祝福の中で歩んでいたのです。そして、自分の幸せな人生はずっと続いて、長生きする

と思っていたのです。

2. ヨブの今の姿

ところがヨブの人生は、1-2章に書かれている神様とサタンの会議が行われた時から、全く変わってしまったのです。ヨブは財産と子どもたちをすべて失い、重い病気に冒されます。愛する妻からも見捨てられ、人々からも嫌われるようになるのです。

30章には、試練の只中にあるヨブの姿について書かれています。すべての人から尊敬され、社会的に高い地位にある人からも一目置かれていたヨブは、世間から追い出されたような人々からも、あざ笑われるようになります(30:1-5)。彼らは、無気力で、社会に何も貢献しようとしぬ人たちです(30:2)。彼らはヨブを嫌って嘲り、笑いぐさとし、ヨブの顔に向かって唾を吐きかけたのです(30:9-10)。このような屈辱を受けたヨブは、神様に苦しめられていると感じていたのです。

人々からの屈辱だけでなく、肉体的な痛みもありました。夜には骨から痛み、どんだん体が蝕まれていき、休まる時ありません(30:17)。このような肉体的な痛みの中でヨブは、神様によって見捨てられた感じていきます。

ヨブの一番の苦しみは、あんなに親しい交わりを持ち、共に歩んで、いつも守って祝福してくださった神様が何も答えてくださらないことです。試練の只中でどんなに苦しみ叫んでも、神様は何もしてくださらないのです。ヨブは、神様との親しい交わりを失ったことに、大きな苦しみを覚えたのです。ヨブにとって神様は、今や残酷な方にさえ思えました(30:21)。あの力強い神様の御手は、ヨブを苦しめる御手のように思えてきました(30:21)。そして神様は、ヨブを死に至らせようとしているように思えてきたのです。

ヨブはあれだけ神様を愛し、人々を愛してきたにも関わらず、このような大きな苦しみに遭わされていたのです。30:26にあるように、ヨブは「**善を望んだのに、悪が来た。光を待ったのに、暗闇が来た**」のです。ヨブの愛は報われず、大きな苦しみだけがヨブを押し寄せてきたのです。神様は何も答えず、御手を動かしてくださらない、人々は自分をあざ笑う、ただただヨブは孤独と絶望のどん底に突き落とされたのです。

3. ヨブの潔白の主張

しかしヨブは、31章で自分の身の潔白を主張するのです。自分は神様に愛され、自分も神様を愛してきた、そして神様が愛された人々をも愛してきた、それなのになぜ神様との親しい交わりを失わなければならないのか、なぜ神様の祝福を失い、大きな苦しみを経験しなければならないのか、ヨブには理解できないのです。

エリファズ、ビルダデ、ツォファルの三人の友人は、それはヨブの罪に原因があると主張しました。因果応報の原理に縛られていた彼らは、ヨブに何か大きな罪がなければ、こんな大きな苦しみに遭うはずがないと考えたのです。そしてヨブに罪を認めて悔い改めろとヨブを責め立てたのです。

しかしヨブはこの31章で、自分にはそのような大きな罪はないと主張するのです。ヨブは、情欲を抱いて女性を見たこともないし、実際に姦淫の罪を犯したこともない、嘘をついたり、人を欺いたこともないと言うのです。自分のしもべや召使にも優しく接し、29章にも書かれていたように、弱い者、やもめ、みなしご、死にかかっている人、貧しい人などの社会的に弱い立場にある人たちを助け、仕えてきたと言うのです。それは、神様がそのような人々を顧みられる方だからです。またお金などの自分の財産に頼ったり、偶像などに頼ったりすることもなく、ただ唯一の主なる神様だけに拠り頼んできたのです。また自分の親しい人や自分の民族だけを愛するのではなく、自分の敵をも愛し、寄留者などの外国人の世話までもしたのです。

このように自分の身の潔白を主張するヨブですが、ヨブには全く罪がなかったわけではありません。31：33でヨブはこう言っています。「**私**が**アダムの**ように、**自分の背きをおおい隠し、自分の咎を胸の中に秘めたことがあるだろうか**」。ヨブには全く罪がなかったわけではありません。ヨブは時には罪を犯したのです。しかしヨブは、自分の罪を神様の前に隠すことはありませんでした。ヨブは罪を犯した時には、神様の前に告白し、赦しを求めたのです。新約聖書のⅠヨハネ 1：9には、「**もし私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめてくださいます**」とあります。神様は、私たちが神様の前に罪を告白するなら、イエス様の十字架の贖いのゆえに赦してくださる方です。それゆえヨブも贖い主に頼り、いけにえを献げ（1：5）、罪を告白して赦しを求めたのです。その意味で、ヨブと神様との関係は何も問題はなかったのです。

それなのに突然、神様との親しい交わりを失い、祝福された人生を失い、大きな苦しみに襲われ、孤独と絶望のどん底に突き落とされたのです。ヨブは、1-2章に書かれている神様とサタンの会議のことは知りません。ですから神様がなぜ自分をこんな目に遭わせるのか、なぜ神様が自分がこんな目に遭っているのに何も答えず、御手を動かしてくださらないのかが分からないのです。

そこでヨブは31：35-37で、神様を訴えようとするのです。つまり神様と裁判で戦おうとするのです。自分は精一杯、神様を愛し、隣人を愛してきた、それなのに自分がこんな目に遭うのはおかしい、神様に誠実さがないと考えたのです。

三人の友人は、ヨブの苦しみの原因は、ヨブの罪に原因がある、問題はヨブにあると考えました。しかしヨブは、自分は神様の前に誠実に歩んできた、それなのにこんな目に遭うのは、神様の誠実さが足りない、神様に問題があると考えたのです。ヨブはここで、神様よりも自分を正しいとしてしまったのです。

ここにヨブの問題点があります。ヨブの苦しみは、神様とサタンの会議によって決められたものでした。それは、ヨブがすべてのものを失っても、どのような苦しみの中でも、果たして神様への信仰を守り続けるかどうか、というヨブの信仰を試すためのものでした。その意味で、三人の友人のように、ヨブの苦しみの原因はヨブの罪にあるという考えは間違いでした。それと同時に、ヨブの苦しみの原因は神様の不誠実にあるというヨブの考えも間違い

でした。ヨブの苦しみの原因は、ヨブの罪にあるのでも、神様の不誠実にあるのでもなく、ただヨブの信仰を試すためのもの、ヨブの信仰の訓練のためのものであったのです。

ここで大切なのは、1-2章を見れば分かることですが、神様はヨブのことを信じていると言うことです。サタンがヨブの信仰を試す提案をして来た時、神様はそれを許可したのです。それは、ヨブが必ずその試練を乗り越えてくれると信じたからです。ヨブは必ず神様への信仰を捨てずに、信仰を守り抜いてくれると信じたからです。だからこそ信仰の試練を許可されたのです。

使徒パウロは、愛は、「…すべてを耐え、すべてを信じ、すべてを望み、すべてを忍ぶ」(1コリント13:7)ものだと言いました。神様は、ヨブを信じて、ヨブに試練を与えられたのです。ヨブが試練の只中にある時、神様は涼しい顔で見られていたのでしょうか。ヨブを愛し、ヨブと親しい交わりの中にあつた神様が、ヨブが苦しむ姿を見て、涼しい顔でいられたとは思えません。神様も、ヨブが試練の只中で苦しんでいる時、耐え、信じ、望み、忍んでおられたのではないのでしょうか。三位一体の主なる神様は、ヨブのためにとりなしながら、ヨブを信じて待ち続けたのではないのでしょうか。

おわりに

神様はしばしば、私たちの信仰も試される時があります。果たして私たちが、何かを失っても神様への信仰を守り抜くか、どのような苦しみの中でも神様への信仰を捨てないか、そのような信仰を試すために、私たちが苦しみに遭わせ、孤独と絶望の中に突き落とされることがあります。しかし私たちがそのような時に忘れてはならないのは、神様は私たちを信じて、そのような試練を与えられるということではないのでしょうか。私たちならきっとこの試練に耐えてくれる、神様への信仰を守り抜いてくれると信じて、神様は私たちに試練を与えられるのではないのでしょうか。私たちの試練の只中で、神様も耐え、信じ、望み、忍び、私たちを変わず愛してくださっているのです。

神様は私たちを信じて試練を与えられます。そうであるならば、私たちも神様も信じて、神様の信頼に答えて、試練に耐え、乗り越えていかなければならないのではないのでしょうか。

天におられる私たちの父なる神様。

ヨブが神様とサタンの会議を知らなかったように、私たちも目の前に起こる苦しみや試練の意味を知りません。神様がなぜこのような苦しみを許されるのか分からずに苦しみます。神様が何も答えてくれず、なかなか御手を動かしてくださらないことに、不信仰が襲いかかります。しかしあなたは、私たちの信仰を試しておられます。あなたは私たちを信じて、信仰の試練を与えられます。そしてあなた御自身も苦しみ、耐え忍んでおられます。

どうか私たちが、あなたの信頼に答えて、様々な試練に耐え、乗り越え、あなたへの信仰を守り通すことができますように助けてください。

この祈りを私たちの救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。